

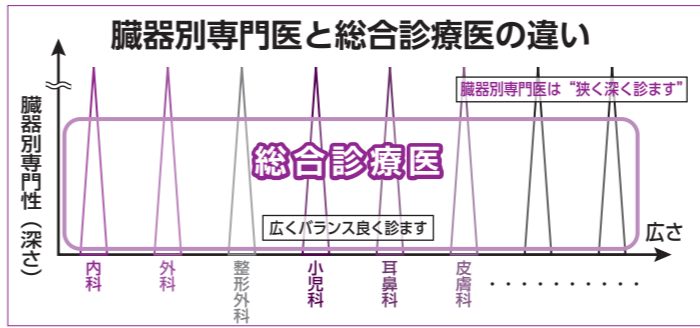
雲南病院だより

総合診療医をご存知ですか？

皆さんは、総合診療医をご存知でしょうか？
 総合診療医は平成30年に正式に医師の専門分野として認められた専門医です。どのような専門医かはまだまだ知られていません。私自身、総合診療医として日々働かせていただいています。これから地域医療にとって必要な存在だと思いますので、総合診療医について紹介させていただきます！
 (地域ケア科 太田龍一)

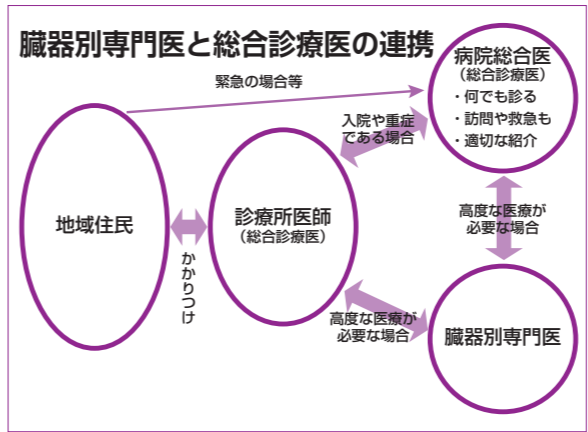
何でも診ます！

多くの方がご存知の〇〇専門医とは各臓器に特化しており、各臓器に特徴的な疾患の治療が得意です。例えば、整形外科医は骨や筋肉の手術をすることが得意であり、眼科医は眼の中を診ることが得意です。それに対して総合診療医は臓器にとらわれず、それぞれの患者さんの持ついくつかの疾患を同時にバランス良く診ることを得意としています。例えば、最近では多疾患併存(一人の患者さんが多数の疾患を抱えていること)とそれによる多剤併用(複数の薬剤を飲むこと)による副作用が問題となっています。高齢化が進むに従ってこれらの問題は大きくなっていきます。総合診療医は多くの疾患に対して幅広い知識を持って対応します。今まで複数の専門医に掛かる必要があった患者さんを総合診療医一人で診ることができるようになっています。

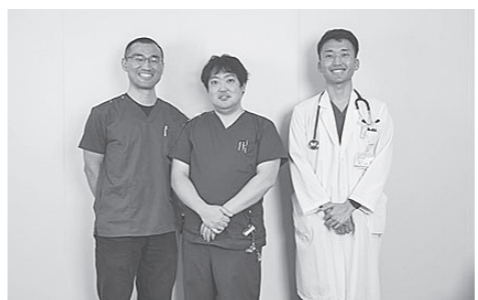


「何でも診ます！」と言っても、もちろん限界もあり、臓器別専門医に診ていただく必要がある疾患や状態もあります。例えば、がんや心臓の疾患等で手術が必要な方は適切に専門医に紹介します。いかに総合診療医と臓器別専門医が円滑に連携することができかが今後の地域医療では重要になってきます。総合診療医は患者さんの全身を診ることができ、予防医療を行いながら、早期に治療可能な病気を発見す

専門診療科と円滑に連携します！



ることができ、その治療や適切な臓器別専門医を紹介します。



左から太田龍一、笠 芳紀、坂口公太

地域ケア科の医師は全員総合診療を志していますので、興味ある方はいつでもお声を掛けてください。

住民の方々や介護職の方々とのつながりを大切にします！

総合診療医の最も重要な特徴は「地域の方々を連携しながら」働けることです。地域の方々はその地域でできるだけ長く健康に生活するために、健康に対する正しい知識を身に付け、予防に努める必要があります。そのための知識を病院や診療所の外来だけでなく、それぞれの地域に出掛けて情報提供します。市立病院で行っている出前講座もその一つです。地域の方々にとって「どこで最期を迎えるか」は大きな感心事だと思います。

ます。総合診療医は地域の方々話し合いを重ね「その方の希望にあった生き方」を尊重しながら、最期の場所に関する話し合いをします。在宅医療もその中の選択肢の一つとして提供させていただきま。在宅医療を行っていく上でケアマネージャーや介護福祉士、介護職の方々と円滑に連携を行い、地域の方々介護や福祉の部分で安心して生活できる地域づくりにも協力させていただきます！

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があり、高度な専門技術に加えて、コミュニケーションスキルや人間性なども求められます。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

病院で働く医療のプロフェッショナル

作業療法士の仕事について

Interview

～作業療法士・南波 真愛(4年目)～



FILE:11

作業療法士という職業を選んだきっかけは？

幼い頃から母が看護師をしており、働く姿を見て医療職に興味を持ち始めました。その中でもリハビリテーションの仕事は医療や福祉の現場、さまざまな分野で多くの仕事に関わることができるやりがいのある仕事だと教わりました。専門学校の見学会で、作業療法士は身体機能以外に「日常生活を送るための応用的動作のリハビリテーション」を行うことと知り、人の生活の役に立てることに魅力を感じ、作業療法士になりたいと思いました。

市立病院で働こうと思った理由は？

専門学校2年のときに、当院で短期実習をしました。学生としては初めての実習先でもあり、緊張していましたが、リハビリテーション科のスタッフや他職種の方が優しく、病院内の温かさを感じたことが一番印象に残っています。私もここでスタッフの一員となり、患者さんやご家族が安心する医療を提供していきたいと思志望しました。

どんな仕事をしていますか？

現在は地域包括ケア病棟を担当しています。主に急性期治療後、病状が安定した患者さんに対して在宅や介護施設への復帰支援に向けて医療・支援を行っています。作業療法士は日常生活の中で必要となる日常生活動作(食事やトイレ、着替え等の身の回りのこと、学校、遊び、家事、仕事等)が行えるようにプログラムを作成して関わっていきます。

市立病院で働いてみての感想は？

他職種との連携を図る会議でチーム医療を目の当たりにし、治療を提供する上でどの職種のスタッフも必要であることを再確認でき、また、その協力し合う姿に専門職として知識・技術をさらに高めていきたいという気持ちが強くなりました。また、患者さんと雲南市ならではの出雲弁で会話しつつ過ごせる雰囲気心地良く思いながら仕事に取り組んでいます。

将来どのような作業療法士になりたいと思っていますか？

自身の知識や技術を高めるための努力を行うことはもちろんですが、患者さんご家族の話に対して真剣に耳を傾けて、退院後の生活や人生に寄り添える作業療法士をめざしたいと思っています。

作業療法士の仕事のやりがいを教えてください。

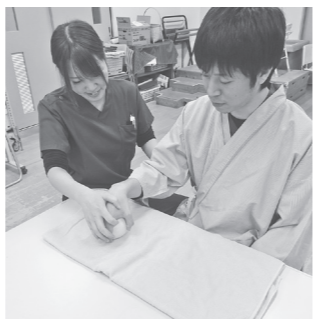
患者さんの生活を中心に医療を提供できることから、自分自身が生活の中で経験したことや興味のあることを活かせるのも大きなやりがいを感じています。

作業療法士をめざす学生に向けてひとことメッセージを！

学業以外に、臨床実習で厳しい場面に立ち向かわなければならないことがあると思います。そのときは自分のことではなく「患者さん」を一番に考えて、学生なりに精一杯諦めず答えを出すことが大切だと思います。頑張ってください。



肩の練習の様子



手首の練習の様子



講演の様子

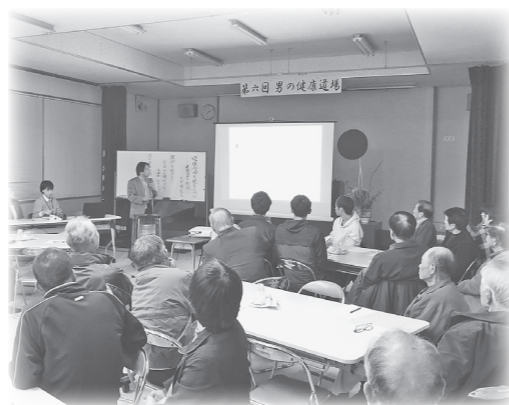
大東町久野地区で「男の健康道場」を開催しました。
 今回で第6回を迎えた「男の健康道場」は、女性に比べ健康に関心の薄い男性を対象とした健康講座です。
 年々参加者が増加し、今回は約60人の参加があり、この6年間で定着してきました。
 はじめに、大谷 順（おたに じゅん）事業管理者から「健康寿命を延ばすために」健康長寿の秘訣」と題し、健康寿命延伸の必要性のほか、生活習慣を本気で考えて病気の予防や重症化を防止、栄養による筋肉量を増やす取り組みの重要性を話しました。
 また、保健師からは「健診を受けよう」と雲南市の現状から」として、

男の健康道場



地元の手作り料理

久野地区の健診受診率等を話し、最後に、この「男の健康道場」の継続した取り組みの結果を報告しました。
 講演後は、恒例の懇親会があり、地元産手作りのごちそうで笑顔と会話が弾みました。健康長寿のためには支え合う環境も必要不可欠で、久野地区の健康意識と人と人のつながりを継続していく必要があると感じました。



多くの男性が参加

病院紹介

作業療法士

地域医療 日本一をめざし 頑張ります！

作業療法は、リハビリテーションの一つです。
 病気やけがをされた方や生まれながらに身体や心の調子の悪い方に対して、自分で再び、または初めていろいろな「作業」をうまくできるようにさまざまな能力を伸ばす生活の仕方を提案する仕事です。

仕事の内容としては、例えば、力の弱い方には徐々に力が付いていくように練習を行います。あるいは、少ない力でも「作業」ができる方法をお伝えするほか、できない理由を分析して、いろいろな解決方法を提案します。身体や心の調子が悪くなったときに、練習や支援と一緒にいきます。子どもからお年寄りまで、その方らしい生活が送れるようにお手伝いします。

当院では、リハビリ室と病棟を中心に作業療法を行っています。訪問リハビリテーションの担当は、利用者さんの自宅に伺いながら行っています。

場所は、一般病棟の入院患者さんと外来の方は中央棟2階にある作業療法室、回復期病棟の入院患者さんは新本館棟4階にあるリハビリ室で行っています。

作業療法では、病気やけがにより生活上で困難となっていることを再び行えるように、やり方や道具の工夫も含めて時期に合わせた練習や支援*を行っています。

例えば、手首を骨折された方であれば、回復の状態を見ながら、関節の動きや筋力が戻るよう、また細かい作業が行える等手首を使用しやすくなるように練習します。

また、日常生活で難しくなっていることが、身の回りの用事であれば、トイレや着替え、入浴等の練習をします。トイレは、ズボンや下着が上げ下げできるような練習も行います。練習は、実際にトイレや浴室等で行うこともあります。

他にも、再び家事を行う予定のある方には、皿洗いや調理、掃除機を掛ける等の練習を行うこともあります。その方の状態に合わせて練習を行っています。

病気やけがをされた後も、住み慣れた雲南地域で再び生活がしやすくなる一助となるように作業療法士のみならず理学療法士、言語聴覚士のスタッフ一同で協力しながら、リハビリテーションを引き続き提供できればと思っています。



作業療法士スタッフ



着替えの練習の様子



入浴の練習の様子



調理の練習の様子

令和元年度 島根県がんピアサポーター相談会 がん治療経験者と話してみませんか？

今までどおりの生活ができるかな・・・。

がん治療中です。他の方はどんな気持ちで過ごしているんだろう？

がん患者さん同士で話してみたいけど・・・。

相談会ではがんピアサポーターが二人一組でお話を伺います。
 ぜひ気軽に参加ください。

がんピアサポーターとは？... 「がんピアサポーター」は所定の研修を修了したがん治療経験者です

日時 2月18日（火） 9時30分～11時30分

会場 雲南市立病院 1階 相談室（総合受付横）

対象者：がん患者さん・ご家族等

- ★ 受診されている医療機関に関わらず相談会に参加できます。
- ★ 事前に相談会参加予約もできます。まずは電話で連絡ください。
- ★ 相談無料・秘密厳守

問い合わせ先 雲南市立病院 地域連携室 ☎0854-47-7520
 島根大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター ☎0853-20-2545

主催：雲南市立病院 / 島根大学医学部附属病院

* 「時期に合わせた練習や支援」とは

- 急性期-病気やけがの直後をさします。基本的な機能が改善する練習を行います。新たな機能の低下を予防します。
- 回復期-病気やけがの状態が安定し、より具体的な生活を想定して機能や能力が改善できるように練習を行います。
- 生活期-住み慣れた場所で、その方らしい生活が送れる支援を行います。状態に合わせた方法や道具の選定、環境調整の提案等も行います。